



# はみ出していく。 よし、はみ出していこう。

暮らしの場所を限られてきた人たちがいる。自閉症と重度の知的障害があり、自傷・他害といった行動障害がある人。世間との間に線を引かれ、囲いの内へと隔てられた。そんな世界の閉塞を、軽やかなステップが突き破る。東京の街角で、介護者付きのひとり暮らしを送る人たち。タンポポの綿毛をとばしブランコに揺られ、季節を闊歩する。介護者とのせめぎ合いはユーモラスで、時にシリアスだ。叫び、振り下ろされる拳に伝え難い思いがにじむ。関わることはしんどい。けど、関わらなくなることで私たちは縮む。だから人はまた、人に近づいていく。



ひとはさびし、ふたりで歩く。  
雨は降る、陽は輝く。人は泣き笑う。



## 矢野大裕 (ししど・だいすけ)

映像作家。学生時代、東京の自然豊かな山、高尾山へのトンネル開発とそれに反対する地元の人びとを描いたドキュメンタリー映画『高尾山 二十四年目の記憶』(2008年)を製作。東日本大震災で被災した動物たちと人びとの姿を描いた『犬と猫と人間と2 動物たちの大震災』(2013年劇場公開)、人工呼吸器を使いながら地域で生活する人々を描いた『風は生きよという』(2016年劇場公開)、知的障害がある人の入所施設での人生を描いた『百葉の葉さやま園の日日』(2016年製作)がある。



2018年/95分/16:9/カラー/日本  
監督・撮影・編集: 矢野大裕 特別協力: 全国自立生活センター協議会

## 知的障害者の暮らしとは?

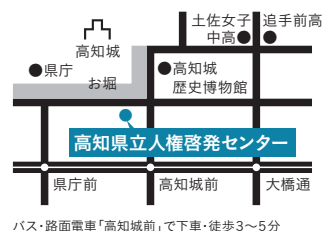
知的障害がある人の暮らしの場は広がってきていますが「重度」とされる人の多くは未だ入所施設や病院、親元で暮らしているのが実情です。2014年に重度訪問介護制度の対象が拡大され、重度の知的・精神障害者もヘルパー付きのひとり暮らしが出来る可能性は大きく広がりました。そんな中、16年夏には相模原障害者殺傷事件が起きました。この街で誰もがともにあるために、新しい選択肢を見つめてみませんか?

## ●申込方法

電話・FAX・Eメールなどで、氏名、参加人数、代表者の連絡先をお知らせください。

## ●申込・問合せ先

(公財) 高知県人権啓発センター  
〒780-0870 高知市本町4丁目1-37  
TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440  
Eメール center@kochi-jinken.or.jp



人権は大きなこころ



こころん

高知県人権啓発センター  
人権啓発マスコットキャラクター

主催: 公益財団法人 高知県人権啓発センター / 高知県